

## 教室運営の報告(アンケート)を受けて 情報・意見交換会を開催

2009/11/29 於：しんじゅく多文化共生プラザ (岩佐 幹彦・記)



### 1 | 活動資金の確保

アンケートによる各教室の主な収入源は学習者の参加費徴収が9割を占めています。自治体(区、市、交流協会等)から毎年一定の補助がされている教室への補助金(ある区では一律5万円)は2割と少なく、使途目的が教材購入、交通費、印刷費、会場費等に限定、制約されています。また、教材や参考書等の購入については、現物補助の対応がなされている自治体もあります。しかし、その会計報告については常に煩雑さがつきまとうことの難点がありますが、割り切らざるを得ない悩ましさもあります。

#### — 助成金の活用を —

これまで補助金、助成金を申請した教室は4割ほどですが、教室活動に必要な支援者募集の講習会やスキルアップ講座の開催等は、講師代、印刷

代、会場費など、一定のまとまった経費が必要になります。その場合の方策として助成金の活用法があります。

しかし、金額の規模の大きい助成金については様々な条件や制限が付帯されており、活用する際の煩雑さも伴って、利用しづらい要因となっている場合があります。



①ある自治体では募集要項のなかに「一般市民を巻き込んでの活動…」という文言が入っています。「市民を巻き込んで」という言葉の意味合いが即座に理解できない場合もあります。

②東京都のように助成金の規模の設定が大きい(100万円以上)場合があります。

TNVNでは昨年(2009・7)、各教室が抱える活動運営の共通する課題についてアンケート調査を実施し、その集約結果をもとに意見交換会を開催しました。

意見交換会では主にボランティアの養成(人材育成)にともなう講座の開設や、その活動の裏付けとなる資金確保などについて話し合われました。





この場合は、相当大きな事業計画を立てなければなりません。日本語教室の活動では大規模な助成は必要ありません。助成金の対象団体（活動）がおのずと限定されてしまうことがあります。

③ 設定されている助成額と計画内容（予算）が合致していなければ助成の対象とされない場合もあります。また、助成金額を計画内容の半額と設定している場合もあります（残りの半額は自己負担）。

④ 講座等の講師選定の場合、講師の資格や条件＝（例、学識者や有資格者、部外者等）が付されることがあります。しかし、日本語教室の場合は、学習者のニーズや特性を理解したうえでのノウハウの積み上げが講師として必要とされる場合が多々あります。

#### — 助成金活用の課題 —

助成金はこのように要件や条件の具備が要求されます。しかし、計画内容や助成額、講師選定など、要件や条件の設定が先行し、そこに目的（活動）を合わせるような形となる場合は、目指す活動の目的が削がれることがあります。

私たち（ボランティア団体）の助成金の使用目的、内容を行政が率直に受け入れてくれることが良いのですが、どこまで行政サイドに入り込めるか、行政を納得させることも必要です。申請者が行政サイド、民間サイドのどちらに立脚点を置くかで助成側の受け入れに差がでることもあります。活動の実績

を積み上げながら助成申請を要件、条件の設定されている申請型から活動目的に添って弾力性のある話し合いができる協議・調整（型）をめざしたいと考えます。

## 2 | 新しい動き、新しい切り口

◎学習支援ボランティアの助成を中止し、自治体が学習支援を開始、そのことにより自治体との関係が解消されるケース（浜松）。◎NPOに学習支援の業務を委託する自治体のケース（新居浜）。◎民間のボランティア団体が有償でプロになったケース（山形）。

こうしたいろいろな動きがあるなかでも日本語学習支援のあるべきスタンスは、行政（国、自治体）が質と量をともなった言語保障を有資格者が有償で行うべきであり、同時に地域においては、住民を中心とした生涯学習（社会人教育）の観点も合わせ持つことが必要です。

また今日、外国籍学習者の国数は増加する一方で、中野国際交流協会では52カ国の言語学習者が在籍し、あまりにも多様化し、全ての言語に対応できない状況が現出しています。今後多言語化のなかに情報伝達の共通語として（仮称）「やさしい日本語」又は「わかりやすい日本語」を考えていく必要があるのではと提起がありました。



## 3 | 市民レベルでの学習支援をとおして多文化共生社会へ

中野区や江戸川区をはじめとして自治体のなかには、市民向け生涯学習のなかで国際コミュニティや国際理解ゼミ等の講座を設けています。現在その修了者の一部の人たちはグループを作ったり、学習支援のボランティア活動を行っています。

日本語ボランティア育成の養成講座が必ずしもボランティア活動に結びついていない現状のなかで、私たち日本語ボランティアは地域との結びつきも含め、こうした動きとの連携なども参考にしながら活動を進めたいと考えます。

#### ●交換会参加団体・グループ（順不同）

足立区：日本語サークル「くりはら」、清瀬市：清瀬国際交流協会日本語教室、江戸川区：江戸川平井にほんごサークル、法政大：山田泉、港区：ピバ日本語教室、練馬区：初歩日本語、町田市：まちだ地域国際交流協会、小平市：小平日本語ボランティアの会、新宿区：早稲田奉仕園日本語ボランティアの会、江東区：やさしい日本語、中野区：中野区国際交流協会、大田区：日本語ぐるりっと、江東区：グッドナイト日本語教室

# 江戸の粋 世界初の都市型大衆文化

日本文化体験交流塾 理事長

米原 亮三

18世紀初頭、江戸の人口は、世界最大級で100万人を超えていたといい、その約半分は、武士と武士の家族であった。大名は江戸城の近隣で住み、その家来や商人、職人も近隣で住んだので、中心部の人口密度が高かった。

江戸では、木造建築が基本で、火には大変弱く、10年に一度大火があったという。こうした都市の構造が江戸の人たちの生活や文化に大きな影響を与えた。

江戸の「粋」の語源は、「生き」という。火事の多い江戸では、あまり物をため込んでも意味がない。「江戸っ子は、宵越しの金は持たない」というように、お金を持ったら、使いきった方が良いとの考えである。「今をいかに、かっこ良く生きるか」が美学であった。

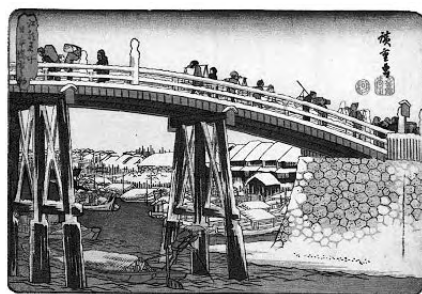
各国の大名・武士はもとより、日本橋などの大店も、本宅は近江や伊勢等の地方にあり、江戸は、仮住まいとの考えがあった。こうしたなかで、ヨーロッパのように、大きな建物を建てて、壁画や天井画などを描く文化は、あまり発達しなかった。むしろ、火事があっても持ち出せるもの、お国に持ち帰れるもの、つまり陶器や蒔絵、カンザシ、掛け軸などの小物に贅を尽した。

また、物流を支えるために、河川や運河が縦横に張りめぐらされ、土地全体の18%もが水面だった。日本橋川などの川沿いには棧橋を有する蔵が立ち並び(写真)、外国人からべ

は、歌舞伎・相撲・手品などの興行が盛んに行われ、多くの人で賑わった。その周辺では、花街が発達して、芸者のおどりに三味線の演奏が流行った。役者や芸者、相撲の力士を描いた錦絵が、プロマイドのように売れた。また、旅行にともない、安東広重の東海道53次や葛飾北斎の富岳36景などの浮世絵も人気があった。ヨーロッパの絵画が一人の画家の作品であり、複製のきかないものであるのに対して、浮世絵は、一回に数百枚と生産し、1枚がそば1杯程度の値段だったという。ほかしや、デフォルメされた形や色など、多様な表現手法が発達した。また、浴衣という簡易な着物がはやったのも江戸であり、京都の西陣などの重厚な文化との相違を感じる。

ヨーロッパにおいては、19世紀になると産業革命を経たロンドンやパリの人口は爆発的に拡大し、大衆文化が生まれる。浮世絵は、ムーラン・ラージュのポスターを描いたロートレック、ゴッホなど、近代絵画に影響を与え、陶器をはじめ、各種の細工物も海外で高い評価を受ける。

現在、相撲や歌舞伎は外国人に最も人気のある行事であり、当交流塾で行う、浴衣着付け、三味線、寿司づくり、浮世絵の擦りなどの体験も外国人に喜ばれている。京都の伝統文化とは異なるものの、江戸から受け継いだカジュアルな、そして環境にやさしい文化は、世界に誇れると思う。



ネチアにも例えられている。九州や北陸など、遠く離れた地方から様々な物資が運べたのも、水運のおかげであった。橋のたもとなどでは、寿司やそばなどの屋台の食文化が発達した。外国からの訪問者が一様に驚いたのは、町並みが美しく、また清潔であったことだという。糞尿を腐らせて、肥料として活用した。また、木材や和紙なども、何度もリサイクルされたという。

浅草寺や両国の回向院の境内に



## ひとつの方法

新しいボランティアの方が教室に参加を希望してきました。

新しい方に養成講座を開いて基本的な事柄について理解をしていただきたいのですが……その都度養成講座を開くことはなかなかできません。

そこでひとまず、初めての方に初級対応としての必要な内容を知っていただくために、TNVNのニュースレターのバックナンバーを活用したインフォメーションガイドを作成しました。



江戸川平井にほんごサークル 岩佐 幹彦

## 案内組み立て 9項目

## 1 教室の案内、規約

教室の目的・趣旨、代表者や会計担当など係の設置、学習者への案内など。

## 2 日本語の現状と日本語ボランティア

日常会話と日本語テキストとのギャップ、男ことば・女ことば、略語、口調、感情的表現など。

(ニュースレターNo.60 2007/12/14)

3 学習支援の際の注意点10カ条  
(教える手順を知り、守る)

①できるだけ日本語を使用(媒介語は多用せず)②イラスト、写真、チラシの多用③動詞は「ます」の形で教えよう④「こ・そ・あ・ど」と6疑問詞の活用⑤現在→否定→過去の順を守ろう⑥短文を覚えさせる 等。

4 日本語指導の手順 初級文型、  
文法事項の把握

東京都教育委員会編集「楽しい日本語」による指導計画表を参考①あいさつ ②ひらがなの発音、書き ③数、物の数え方 ④時間・日時表現 ⑤基本型「～は～です」の習得 ⑥身近な単語の発音練習 ⑦日常生活で多い質問の意味の理解(断定、可能、了解)質問語(なに、どれ、どこ、だれ、いつ、いくら等 ⑧カタカナ ⑨形容詞 ⑩形容動詞 ⑪動詞 ⑫自己紹介表現 ⑬作文 ⑭原因、理由の表現 等

## 5 日本語ボランティアのあり方について

「日本語ボランティアとしてこうありたい」

(ニュースレターNo.50 2005/ 6/10)

## 6 ゼロレベルの学習者との対応

一つの方法

(ニュースレターNo.63 2008/ 9/12)

## 7 自由会話のなかで(困ったときの対応:1)

一つの方法

- レベルの違う学習者が一緒になったとき。
- 漢字圏、非漢字圏の人が一緒になったとき。

(ニュースレターNo.64 2008/12/12)

## 8 自由会話のなかで(困ったときの対応:2)

一つの方法

- 1人で話題を独占
- 政治の話は?

(ニュースレターNo.65 2009/ 3/13)

## 9 日本語学習支援と心の結びつき

- 活動の場での学習者との対応

—TNVN意見交換会から—

(ニュースレターNo.50 2005/ 6/10)

※クリアファイルブックを利用し、差し替えができるようにしています。

ポーランドは中央ヨーロッパにあり、ドイツ、チェコ、スロバキア、ウクライナ、ベラルーシ、リトアニアと国境を接しています。

北にはバルト海、南にはカルパティア山脈の一部をなす美しいタトラ(Tatra)山脈があります。ポーランドの最高峰、ライジー(Rysy)の北西峰(標高2,499メートル)はタトラ山脈にあります。



タトラ山脈を背に

ベスキッド(Beskids)はポーランドのもう一つの山脈の昔から知られた名前です。タトラほど有名ではありませんが、負けずに魅力的な山です。東ベスキッドはビエシュチャディ(Bieszczady)として広く知られていて、ポーランド人にも外国からの観光客にも人気があります。

ポーランドは水資源に関して非常に独特な国です。約一万の湖がありますが、これは世界でも非常に多い方です。

ポーランド最大の主要な宗教はキリスト教です。ポーランドが、君主ミエシュコI世(Mieszko I)の統治下にあった996年にキリスト教を取り入れました。

クリスマスは、国民の大部分を占めるカトリック教徒にとって、最も大切な祝日の一つです。ポーランドの伝統的なクリスマスは特別なやり方で祝います。クリスマスには、それぞれの家族はテーブルを囲んでお祈りをし、特別な夕食を楽しみます。この夕食はとても伝統的な形

で、12種類の料理が準備されますが、その中の肉料理は魚料理になります。夕食のあと、みんなでクリスマスの歌を歌います。それから、きれいに飾られたクリスマスツリーの下にあるプレゼントを開ける時がきます。

昔からのならわしでは、家族のいない人とかホームレスの人が突然来た場合に備えて、テーブルにひとつ余分に食事と椅子を用意しなければなりません。もしそのような不意のお客が来たら、招き入れてご馳走し、一緒にクリスマスを祝います。クリスマスイブの主な目的は、静かに、誰にでも心を開いて、生きることの価値や意味を考えることなのです。多くの人々は深夜に教会へ行き、ミサに参列します。

翌日の25日は親戚を訪ねる日です。前日の24日と違って、もっと賑やかに、テーブルの上のいろいろな飲物、ご馳走を食べながら過ごします。

料理といえば、ポーランドには太った木曜日(Fat Thursday)という習慣があります。一番有名な食べ物(英語ではドーナツ)ポウンチュキ(Paczki)の日です。この日は、四旬節(キリスト教で、復活祭までの40日間)の前の最後の木曜日(今年は2月11日でした)で、謝肉祭と関係があります。太った木曜日にはたくさんのポウンチュキを食べ、続いてやってくる四旬節に断食をします。その後、ご馳走にありつけるのは復活祭です。

ポーランドのドーナツはたいへん美味しく、近隣諸国でもとても有名です。

(原文英語)



古都クラクフ

# \* 私の国 ポーランド \*

## ヤツエク フロンチエク

ビバ日本語教室白金台/港区

## 生活、仕事の日本語をお手伝い にほんご生活

小金澤英子（中央区）

「にほんご生活」は、中央区文化・国際交流振興協会主催の日本語指導者養成講座を受講した有志が立ち上げたボランティアの日本語教室です。

昨年10月に開講したばかりで、若葉マークの指導者たちですが、毎週土曜日、学習者たちと一緒に楽しく勉強しています。

現在、学習者12名前後、ボランティアは12名で活動中。生活や仕事上で日本語に困っている外国人の日本語学習をお手伝いするのが目的です。

学習者は、初級者から上級者までレベルを問わず受け入れています。ひらが

な、カタカナを読むのも困難な人、単語を知っていても文章にできない人、会話は上手だけれど読み書きが苦手な人など実に様々で、国籍も人種も多様です。

ボランティアは学習者の希望になるべく添った授業を目指しています。

そのため担当ボランティアは、オリジナルの教案（場面別）を準備するのがとても大変です。

例えば、生活面では「買い物をする」「病院に行く」「レストランで注文する」など、また仕事面では「職場での敬語」「メールの書き方」「名刺交換」など、キーワードになる表現（文法）や言葉（単語）をピックアップしながら教案を準備



しています。

学習者は皆さん意欲が高く勉強熱心なので、ボランティアもよい刺激を受けています。

毎回「こんにちは」「宜しくお願います」「お疲れ様でした」「ありがとうございました」「また来週」とあいさつするたびに元気をもらい、元気を返しています。

まだまだ発展途上の「にほんご生活」ですが、学習者のための地域密着型ボランティア教室として、必要とされる存在になりたいと思っています。

### 会員団体紹介

## Nice to Meet You

開設17年目を迎えました。『学習者の要望に応じたきめ細やかさ』を基本方針にしているサークルです。主な要望は「あいいうえお」からの入門、日常会話の実践、日本語学校の予習・復習、日本語能力試験対策、日本の文化・習慣の理解などです。時には学習面以外の生活相談に応じることもあります。個々のボランティアで対応困難な場合は、毎回終了後に行われるミーティングで相談合っています。係分担(1年間)、当番(毎回)を輪番制にしていることが、「全員がサークル運営に係わる」という伝統を築いていると言えます。

学習者は毎回15名ほどで、ボランティアの人数とほぼ一致していますので、原則として1対1が成立している状態で

### nice to meet you

ひとり、ひとりのニーズに合わせて

## めじろ日本語サークル

河口久子（豊島区）

す。学習者の出身国は40ヵ国以上に及んでいます。

参加期間は個々の事情により異なりますが、期間の長短に関係なく帰国後も近況報告の手紙などを受け取ったりすると、小さな国際交流から生まれる幸せを感じます。

全体的コミュニケーションの場として欠かせないのが、「お花見」と「忘年会」の二大行事で、いずれも平素味わえない



絶好の交流の場

となっています。「お花見」は学習院大学の構内を通り抜けて、桜の名所である神田川から新江戸川公園への散策。「忘年会」は学習者に縁のあるレストランでそれぞれのお国料理を味わいます。最近ではトルコ、ベトナム、ロシアの料理を楽しみました。

また、夏休みには学習者のお子さんや、豊島ボランティアセンター主催の体験ボランティアで高校生、大学生なども加わり、一段と賑わいます。尚、豊島区生涯学習グループの協賛を得ていますので、より前向きに活動することを心掛けております。

和気あいあいと学習している様子をお伝えできれば幸いです。





学習者の声

日本語がわからないので、  
 どうすればよいのか？

李根政 (韓国) / みんなではなそう日本語 (江東区)

私は今、4歳と5歳の子供たちを持つ韓国人です。3年前主人の会社の仕事で東京へ来ました。当時は子供たちが幼かったし、日本語を話すことができなかったのも、色々な意味で、心配なことが多かったんです。

いつも日本語の勉強をしなければならぬと思っていながらも、育児と家事で時間が取れませんでした。でも、主人の助けもあって、日本語がよくわからなくても、生活をしていくのに、大きな問題はなかったんです。

そのうちに、子供たちがますます大きくなってきて、幼稚園で日本人の友人ができ、子供たちはママの私よりも日本語がずっと上手になりました。そこで私は、子供たちのために勉強をするべきだと考えました。そうして今、江東区文化センターの日本語教室「みんなではなそう日本語」で、良い先生方と人々に会って、勉強しています。

私が日本で生活を始めたころ、主人に聞きました。「日本語がわからないので、どうすればよいのか？」と。すると、主人が教えてくれた最初のことは『どうぞ』と『どうも』と『すみません』でした。

はじめは、この言葉の意味がわからないまま使ってきましたが、今は何となく『どうぞ』『どうも』『すみません』の言葉の「ふかみ」がわかる気がします。

日本はあいさつがすばらしい国です。そのことばで心があたたか

くなるのです。  
 今日も私はやさしくて礼儀正しい日本の友人と楽しい毎日を送っています。



ボランティアの声

山口秀雄 / みんなではなそう日本語 (江東区)  
**親日家が増えたら  
 うれしいな**

定年退職 (60歳) してなにをしようかと考えていたときに「外国人に日本語を教える人を養成するコース」に出会い、このコース終了以来ずっと日本語教師を続けて、気がついたら15年経っていました。

ももとは、歳をとってからでも何か世の中の役に立つことをしたいという思いから始めたのですが、やっているうちに生徒さん達から感謝されることが多くなり、それが嬉しくて教師を続けています。

ここ数年は上級コース (日本語検定1級合格以上の実力者対象) を担当しています。各回2時間、前半は日本語クロスワードパズルを解いたり、天声人語 (朝日新聞) や編集手帖 (読売新聞)、サザエさん等、新聞の切り抜きでオシャベリしたりします。後半は「本読み」で日本で最近ベストセラーになった本や話題になった本の中から気に入ったものを選んで、皆で順番に読み、感想を述べ合ったり、それぞれのお国との比較をしたりして

ワイワイガヤガヤとやっています。最近の3年間で使った本は「千の風になって」「佐賀のがばいばあちゃん」「ホームレス中学生」です。

これ等を通して、私は日本と日本人の習慣や現状、ものの考え方、昔の生活等々を少しでも知ってもらおうと努めています。そしてそれが一人でも多く日本を好きになってくれる人が増えることにつながればこんなにうれしいことはありません。

次の「本読み」はどの本にするか検討中です。「筆談ホステス」にするか「99のなみだ」にするか生徒さんたちと相談しています。





### ●韓国からの来訪者

韓国の淑明女子大学の孫さんから、メールで「学科で多文化共生社会を主題に東京と大阪地域を訪問し、事例を調査し、勉強するために探訪したい。その際学校の教授の助言からTNVN ホームページの活動を見て色々勉強しましたが、分からないことが多いので、直接話を聞きたい」との希望が寄せられました。

1月22日（金）学生8人と指導教授1人、総勢9人がTNVN事務局（飯田橋）を来訪されました。

TNVNの活動内容、東京都のボランティア日本語教室の状況、同席したTNVNスタッフ4名が活動している様子などをお伝えしました。学生さん達からは「ボランティアで得るモノは何なんでしょうか」等の質問もありました。

通訳を兼ねた孫さんは流暢な日本語で質問や説明に対応され、同行のメンバーが共通の認識を持てるよう対応をされていました。

おわりに、来訪の皆さんから感想をいただきました。

「ボランティアで長い活動をしていること。



日本語に誇りを持って教えていることに驚きました。帰ったら活動をしていきたい。」「一般市民ボランティアだけの活動が盛んで驚き、海外の経験から日本でのボランティアをする気持ちが素晴らしい」「多文化共生について習ったことがよく分かり、普通の生活の中からこうした活動が起きていて帰ってからよく考えて行きたい」「外国人に対して行政が何かしてくれるのを待つのではなく、こちらから（ボランティア）呼びかけ、友好や日本語への道を開いていくのは素晴らしいことだと思います。」

2時間余りの交流でしたが、わたしも来訪された9名の方々と楽しいひとときを過ごしました。（梶村）

### ■ニュースレターに掲載する記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学

習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

## ●Column

### ◆寿大学の講師

地域の寿大学は大変盛況で、今や第85期。抽選で参加者を決める程とのこと。

昨年末、その中のクラブ活動の一つ「シニアライフ、ボランティア活動の魅力」の講師依頼がありました。長い間日本語ボランティアをして来たのですから、その経験をお話すれば良い!!「OKよ」と引き受けましたが、さて直前になって はて?何から話そうかなと困りました。

担当の方が、対話形式でして下さるとのこと、

つまったら助けて下さるらしいので安心です。当日は日本語ボランティアにかか

わるきっかけからすらすらと話は進み、山は「ボランティアをするにあたり大切なことは」社会に役立つこと、人と人とのつながり、真心誠意、継続すること、楽しむこと。それに順番をつけましょう!! と言う段でした。

参加者の方々はそれぞれ思い思いに順番をつけ、私は私で順位をつけました。私は迷わず、楽しむこと、継続すること、無理しない、でした。

参加者の方々と違いが出ました。

ボランティアは楽しくなければつづきません。先ず楽しんで下さい。参加者の方々の共感の聲が上がり、私はとても満足のうれしい経験をさせていただきました。感謝!! (R.O)



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日／午後2時～4時  
第2、第4 金曜日／午後2時～6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口B2b）飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数（2010年2月12日現在）

正会員：85団体 協力会員：31シ名

賛助会員：5団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野

●レイアウト／鶴田 環恵